

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県北会場＞

科目 ⑫学校・地域との連携

- ◆ 人口減少や時代の変化により、学校が地域と一緒に問題解決を行うコミュニティスクールがあることを知った。学校側や地域側、いろいろな方面から、子どもたちをサポートしていく体制が素敵だと思った。子どもが安心して生活したり、遊んだりできるように日頃から学校と連携を図り、情報交換や情報共有をしていくことの大切さを改めて感じた。また、地域とも連携を図り、一緒に見守り育てていく環境作りが今後大切になってくることも感じた。
- ◆ 社会の目まぐるしい変化により、学校、地域も変化している。学校での教育も教科が増えたり、保護者の対応も多様になったり、特別支援教育に関わる課題も複雑化、多様化しており、そのために地域と一緒に問題を解決しようとする“コミュニティスクール”があることを知った。学校、保育所、地域との連携が不可欠であり、子どもに関する情報の共有、交換により子どもの今の状況をスムーズに把握することができる。子どもを複数の目で共に守ることでゆとりが生まれ、子どもたちに多くの目を向けることができるということを知った。
- ◆ 本科目を通じて、放課後子ども教室があることを学びました。また、放課後子ども教室の目的は、地域の人の協力を得て学習や体験・交流活動などの機会を提供することだと理解できました。今後は、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体化して、子どもたちの居場所が増えてほしいと思いました。グループワークを通じて、学校の中に児童クラブがあると、学校の先生と連携しやすいことを学びました。
- ◆ 予測困難な未来に向けて、今後なくなる職業やAIが関わってくる職業に驚いた。そのような中で学校も複雑化してきており、児童クラブも学校、地域と連携していくことが大切であると学んだ。厚生労働省も文部科学省との一体的な運営を目指すということで、放課後児童クラブと放課後子ども教室等を連携しながら子どもを支援していくかなければと思った。子どもたちの居場所のひとつである児童クラブが安心、安全で心地よい場所になるよう支援員として努めていきたいと思う。
- ◆ 秋田県の人口減少に伴う問題への対応として、新しい連携のあり方の紹介があり、その背景にある現在の学校を取り巻く問題の複雑化、困難化について学んだ。その中でも“コミュニティスクール”的理念からは、特に“協働”的意識やその必要性も感じることができる内容でした。また、講師の最後の言葉から、放課後児童支援員への励ましの内容の一言もとても印象的でした。